

音楽科学習指導案

日 時：平成20年1月23日(水) 2校時
 場 所：沖縄県立南風原高等学校 音楽室
 対 象：1年9組(男子26名 女子14名 計40名)
 指導主事：吉川陽子
 授業者：當間錦

1 単元名 リズムアンサンブルに挑戦しよう！～読譜マスタードリルを用いた学習（リズム編）～

2 単元設定の理由

(1) 教材観

高等学校学習指導要領において「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う」ことは、芸術科の目標とされている。その内容として音楽Iでは、歌唱および器楽における「視唱力・視奏力の伸長」が挙げられ、中学校での読譜指導を継続し、更にその能力を伸ばすことが求められている。

視奏力の伸長を目的に、授業者が作成した「読譜マスタードリル（リズム編）」を学習することにより、音楽の三要素のなかで最も重要なリズムを理解し、リズム楽譜を読めるようになることが、より発展的な演奏表現活動の第一歩となるのではないかと考えた。

(2) 生徒観

本校の音楽授業において、授業で学んだ楽曲や生徒が自由に選択した楽曲を個人やグループで演奏発表する「ミニコンサート」を年間のまとめとして実施している。これまで取り組んだ3年間の成果と課題としては、発表会へ向けた生徒の学習意欲向上は目覚しいが、一方で、「演奏したいけど、楽譜が読めないから自分で練習できない。」「音程、リズムが分からぬ。」といった、目指す視唱力・視奏力が充分に培われていない生徒の多さが課題となっている。

音楽I選択の生徒115名を対象に実施した「音楽実態調査（アンケート）」と「読譜能力チェック」の結果をみると、約6割の生徒が読譜の苦手意識をもっており、特に「リズム」は、生徒の自己意識と読譜能力の実態が苦手項目として一致している。

そこで、リズムについて理解し、楽譜を読むことを通して、自ら演奏しようとする態度を養いたい。

(3) 指導観

読譜マスタードリル（リズム編）は、基本編と応用編から構成されている。基本編は、ゲーム感覚のリズム認識とリズム楽譜への移行、早読み・早書きによる階名読みで編成され、応用編は、実際の楽曲を用いたリズム楽譜の理解や簡易なリズムアンサンブルとなっている。

読譜を苦手とする生徒は、音を耳で覚え、音の出だしは人の動きに合わせていることが多い。楽譜を見て、考え、分かり、演奏できる力を伸ばすことは、発展的な音楽活動と深化させた学習に結びつくと考える。

そこで、本ドリルを用いた学習で、楽譜が読める自信とグループでのリズムアンサンブルの響きを味わわせたい。

読譜マスタードリル		リズム STEP3	年 組 番 (氏名)			
【学習目標】拍を数ながら、リズム読みができる。(4/4拍子、3/4拍子)						
Try 1 それぞれの音符や休符のリズム読みを覚えよう。						
 タア アーチー	 タア アーチー	 タイ ターチー	 タ ターチー	 ミ ミーチー	 ウン ウーチー	 ウ ウーチー
 タタ ターチー	 タッカ ターチー	 タカタカ ターチー	 タッタカ ターチー	 タカタ ターチー	 タタタ ターチー	
Try 2 次の楽譜に、リズム読みを書いてみよう。						
(1) 						
(2) 						

読譜マスタードリル（一部抜粋）

3 単元の目標

- (1) 簡易なリズムアンサンブル楽譜を読み、音楽記号を理解して演奏することができる。
- (2) 2拍単位でのリズムパターンを理解し、複声部によるリズムアンサンブルができる。

4 単元の総時間 リズム編 8時間

5 単元の学習における評価規準

1 関心・意欲・態度	2 音楽的感受の表現・工夫	3 表現の技能	4 鑑賞の能力
① 楽譜を見て、基礎的なリズムに関心を示し、主体的に表現しようとしている。 ② 曲の特徴、楽譜に示された記号や標語の意味等に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 ③ パートの役割を意識し、協力し合って主体的にアンサンブルに参加しようとしている。	① 楽譜を見て、一定の拍感を保しながら、リズムや休符を感じて、表現を工夫している。 ② 曲の特徴、音楽記号や標語の意味を理解し、演奏表現を工夫している。 ③ 各パートのバランスや全体の調和を感じ取って、表現を工夫している。	① 楽譜を見て、カウントしながらリズム唱やリズム打ちが正確にできる。 ② 曲の特徴、音楽記号や標語を正しく表現する技能を身につけている。 ③ 各パートのバランスや全体の調和のとれた表現をする技能が身についている。	① 一定の拍感を感じ取り、リズムや休符を聴き取っている。 ② 曲の特徴、音楽記号や標語の意味を理解し、楽曲における変化を聴き取っている。 ③ 各パートのバランスや全体の調和によるリズムの動きやよさを味わっている。

6 指導と評価の計画

時 間	◆ 学習内容 ○ 学習活動 (○の中の数字は活動の順序)	◇指導上の留意点	評価の観点				評価方法
			1	2	3	4	
第一 次 4 時 間	【読譜マスタードリル リズム STEP 1】 ◆ ○や◎記号の楽譜で、拍を感じながらリズム打ちをする。 ① 記号譜を読み、リズム打ちを練習する。 →Try 1, 2 ② 記号譜での二声リズム打ちに挑戦する。 →Step up チャレンジ	◇ 楽譜に苦手意識のある生徒も、ゲーム感覚で音を認識できるように導入。 ◇ 記号譜の○=♩, ○=♪, ◎=□を理解させ、数を数えながら打たせる。 ◇ 慌てずに数を数え、二声のリズムの響きを聴きあってリズム打ちさせる。	①	①			学習活動の観察 マスタードリル 自己評価
	【読譜マスタードリル リズム STEP 2】 ◆ ○や◎記号の楽譜を、リズム譜へ移行する。(4/4拍子, 3/4拍子) ① 記号譜を音符を使用して書き換える。 →Try 1 ② 付点音符の理解、音符の足し算をする。 →Step up チャレンジ	◇ 記号譜を音符の書き方に注意して、リズム譜へ書き換える。 ◇ 例に習って、丁寧に音符を書かせる。 ◇ ♩ ♪ ♩ ♪ ♪ の音価を理解させ、簡単な音符の足し算に取り組ませる。	①	②			学習活動の観察 マスタードリル 自己評価
	【読譜マスタードリル リズム STEP 3】 ◆ 拍を感じながら、リズム読み、早読みをする。(4/4拍子, 3/4拍子) ① リズム読みを覚え、早読みを練習する。 →Try 1, 2, 3 ② タイを含むリズム読みに挑戦する。 →Step up チャレンジ	◇ 音符の読み方を定着させ、拍を感じてリズム読みや早読みに取り組ませる。 ◇ 音符の下に読み方を書かせ、スムーズにリズムが読める練習をさせる。 ◇ タイで繋がった音の長さを理解させ、付点音符の長さにも注意しながらリズム読みに取り組ませる。		①	②		学習活動の観察 マスタードリル 自己評価
	【読譜マスタードリル リズム STEP 4】 ◆ タイ、シンコペーションがある楽譜のリズム読み、早読みをする。 ① 2拍パターンを用い、リズム譜を作る。 →Try 1 ② タイを含むリズム(早)読みを練習する。 →Try 2, 3 ③ 二声のリズム打ちに挑戦する。 →Step up チャレンジ	◇ 2拍単位のリズムパターン(付点音符、シンコペーション含む)を理解させる。 ◇ 2拍単位のリズムパターンを組み合わせて、4小節のリズム譜を書かせる。 ◇ タイやシンコペーションの読み方に注意して、早読みに取り組ませる。 ◇ 慌てずに数を数え、二声のリズムの響きを聴きあってリズム打ちさせる。	②	②	①		学習活動の観察 マスタードリル 自己評価

第 二 次 時 間	【読譜マスタードリル リズム STEP 5】 ◆ リズム楽譜から知っている曲を探す。 (唱歌や童謡) ① 簡易なリズム譜から楽曲を探り、歌詞を記入する。→Try 1 ② 簡易な楽曲のリズム穴埋めをする。 →Try 2, Step up チャレンジ	◇ リズム化された唱歌や童謡の楽譜をみて、既存の楽譜に慣れる。 ◇ 曲名一覧からヒントを得て、リズムを読み、歌詞を記入させる。 ◇ 歌詞に応じた音価の配置で、音符を記入させる。			①	学習活動の観察 マスタードリル 自己評価
	【読譜マスタードリル リズム STEP 6】 ◆ リズム楽譜から知っている曲を探す。 (高等学校で学習する曲) ① 音価の細かいリズム譜から楽曲を探り、歌詞を記入する。→Try 1 ② 音価の細かい楽曲のリズム穴埋めをする。 →Try 2, Step up チャレンジ 【視奏テスト 練習問題】 ◆ 「楽譜をよむコツ」を確認し、練習問題に取り組む。 ① 3つの手順を理解し、読譜の練習をする。 ② 二声のリズムアンサンブルを練習する。	◇ リズム化された既習曲の楽譜をみて、既存の楽譜に慣れる。 ◇ 曲名一覧からヒントを得て、リズムを読み、歌詞を記入させる。 ◇ 歌詞に応じた音価の配置で、音符を記入させる。 ◇ 視奏テストの実施方法を確認し、次時の学習イメージをつかませる。 ◇ 3つの手順「2拍ごと」「リズム読み」「リズム打ち」を再確認させる。			②	学習活動の観察 マスタードリル 自己評価 練習問題
第 三 次 時 間	本時 【読譜マスタードリル リズム STEP 7】 ◆ 簡易なリズムアンサンブルを視奏する。 (二声リズム譜の視奏テスト) ① グループでリズム譜の視奏練習。 →Try 1, 2 ② グループ毎に演奏発表テスト。 →Try 1, 2	◇ 楽譜を読み、グループで二声のリズムアンサンブルを演奏発表させる。 ◇ 決められた練習時間で、視奏練習に取り組ませる。 ◇ 拍数を数える等、メンバーが共通の拍感で演奏できるように工夫させる。			③	学習活動の観察 演奏発表 鑑賞評価 自己評価
	【読譜マスタードリル リズム STEP 8】 ◆ 簡易なリズムアンサンブルを視奏する。 (四声リズム譜の視奏テスト) ① グループでリズム譜の視奏練習。 →Try 1, 2 ② グループ毎に演奏発表テスト。 →Try 1, 2	◇ 楽譜を読み、グループで四声のリズムアンサンブルを演奏発表させる。 ◇ 決められた練習時間で、視奏練習に取り組ませる。 ◇ 拍数を数える等、メンバーが共通の拍感で演奏できるように工夫させる。			③	学習活動の観察 演奏発表 鑑賞評価 自己評価

7 本時における具体的評価規準

主な学習内容	評価規準とその方法	学習活動における具体的評価規準		
		A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (支援の具体的方法)
1 グループで二声リズム譜の視奏（演奏発表）	● 楽譜を見て、正しいリズムでアンサンブルができる。【学習活動の観察、演奏発表】	● 楽譜に書かれている音や音楽表現を理解し、拍感を保つて表現している。	● 楽譜に書かれている音の進行を目で追い、他の人に合わせて表現している。	● 「楽譜を読むコツ」を再確認し、楽譜を見ながら演奏する意識を定着させる。
2 他グループの発表を聴いての相互評価、および自己評価	● 曲の流れを理解し、自他の演奏における良さを発見できる。【鑑賞評価、自己評価】	● 楽譜に書かれている音や音楽表現を正しく演奏しているか分かる。	● 各パートの音の揃いを聴き取っている。	● 「よかった」「上手かった」以外にも、素直に感じた良さを発見できるように促す。

8 本時の展開 (7／8時間目)

<本時の目標> 二声のリズム譜が読め、演奏発表することができる。(視奏テスト)

過程	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	1 リズムトレーニング (7分) <ul style="list-style-type: none"> ◆ リズムパターンを確認する（2拍単位） ◆ リズム練習をする（4拍×4小節、4題） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ フラッシュカードを使ったリズム確認。 ◇ パワーポイント教材によるリズム練習。（大型モニターによる一斉指導） 	学習活動の観察
展開	2 本時の流れを確認 (2分) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 練習時間と発表順序を確認する。 ◆ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 読譜における基本的事項と基礎的な手立て、演奏発表の順序を再確認させる。 	
38分	3 楽譜を読むコツを確認 (3分) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 2拍ごとにリズムパターンを確認する ◆ 2拍ごとにリズム読みをする ◆ ゆっくりとリズム打ちをする ◆ 例題を一斉演奏する。 </div> 4 グループでの練習 (10分) <ul style="list-style-type: none"> ◆ グループ内で楽譜を読み、練習する。 5 グループごとの発表 (18分) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 皆の前に出て、リズム視奏発表する。 6 相互評価と自己評価 (5分) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 他グループの発表を聴いての総合評価と自己評価をまとめれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 3つの手順「2拍ごと」「リズム読み」「リズム打ち」を再確認させる。（前時配布プリント） ◇ 例題を用いて、一斉に視奏を行う。 ◇ 視奏問題(STEP 7)を配布。 ◇ 問題の特徴を捉え、決められた練習時間で、視奏練習に取り組ませる。 ◇ 拍数を数える等、メンバーが共通の拍感で演奏できるように工夫させる。 ◇ 各パートのバランスや全体の調和によるリズムの動きや良さに気付かせる。 	学習活動の観察 学習活動の観察 演奏発表 鑑賞評価 自己評価
まとめ	7 まとめ (5分) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 全体で本時の視奏曲を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ クラス全体でのリズムアンサンブルの響きを味わわせる。 	マスタードリル提出

検証授業メモ

〈成 果 〉

-
-
-

〈課 題 〉

-